

日本式教育の発信—エジプト日本人学校との交流を通して—

前カイロ日本人学校 教諭

岐阜県可児郡御嵩町立御嵩小学校 教諭 原 圭 吾

キーワード 日本式教育の発信、エジプト日本学校、特別活動

赴任校の概要（令和6年3月現在）

学校名・日本語：カイロ日本人学校

学校名・現地表記：Cairo Japanese school

URL：https://cjseg.jimdofree.com/

児童生徒数：小学部22人 中学部2人

1 はじめに

私は、令和3年にカイロ日本人学校へ赴任した。コロナ禍での赴任となり、当時は現地校との交流ができない状態だった。そんな中、今後の現地校交流をどのように展開していくことができるか模索している時、エジプトには日本式の教育を取り入れたエジプト日本学校があることを知った。

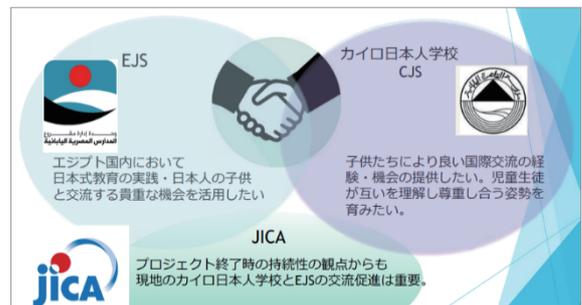
エジプト日本学校（Egyptian Japanese School：以下EJSと略す）は、2016年に「エジプト・日本教育パートナーシップ（EJEP）」が締結されたことで、設立された。EJEPは、「就学前教育から基礎教育・技術教育・高等教育に至るまで、エジプトの教育システム全体に対し、技術協力及び資金協力を通じて、日本の教育の特徴を生かした包括的な支援」を行うものとされている。その支援を請け負っているのが、独立行政法人国際協力機構（JICA）である。JICAの支援は、大きく4つに分けられている。その中でEJSは、基礎教育として、学力偏重のエジプト基礎教育に対し、日本式教育（特別活動：TOKKATSU等）を導入する事で、主体性、協調性、社会性、規律等の醸成を促進することを目標としている。

カイロ日本人学校にとって、EJSと交流を行うことは、国際理解教育の充実を図れると共に、双方にとって有益な交流になると考えた。そこで、令和4年3月にJICAエジプトに協力を依頼し、EJSとの交流に向けてプロジェクトをスタートさせた。

2 交流までのプロセス

令和4年4月にカイロ日本人学校、JICAエジプト事務所、プロジェクト専門家によりオンライン会議を実施した。私はカイロ日本人学校の教頭として、ファシリテーター役を務めた。

オンライン会議では、まずJICAよりエジプト教育分野における協力概要の説明があった。続いて、プロジェクト専門家よりEJSプロジェクトが実際にどのように行われているか説明があり、最後にカイロ日本人学校側からEJSとの交流の構想について提案した。具体的には、①職員交流（委員会活動、なかよしランチ、普段の様子への参観）、②体育活動



（JICAエジプト事務所作成の交流イメージ図）

(体力テスト、運動会等)、③国際交流(JAPAN DAY、学習発表会、交流学習)の3つ交流の形で提案した。プロジェクト専門家から「多くのEJSが日本人学校と交流したいと申し込みがあると想定されるが、どのような交流を考えているか」と質問があり、カイロ日本人学校としては、継続した交流をしていくために、特定の学校と交流をしていきたい旨を伝えた。会議後にエジプト教育省と調整を行い、令和4年5月13日(月)にカイロ日本人学校で行われる特別活動「なかよしランチ」をEJS、JICA、エジプト教育省関係者の参観が決定した。

3 日本式教育の発信の歩み

令和4年4月	カイロ日本人学校・JICAエジプト事務所・プロジェクト専門家にてオンライン会議を開催。エジプト教育省と相談の結果、Industrial校と交流することが決定。
令和4年5月	カイロ日本人学校にて、特別活動の「なかよしランチ」へIndustrial校の校長、教員、エジプト教育省関係者を招待。学校紹介や今後の交流について意見交換を実施。
令和4年5月	Industrial校へカイロ日本人学校3名が訪れ、学校の様子を参観。今後の児童生徒の交流について意見交換を実施。
令和4年10月	カイロ日本人学校の運動会にIndustrial校の児童が参加。開会式、徒競走、綱引き、玉入れに参加。
令和4年11月	カイロ日本人学校のJAPAN DAYにIndustrial校の児童を招き、児童生徒による日本の文化紹介や体験をして、交流を実施。
令和5年3月	EJS Shorouk1校を訪れ、TOKKATSUの実践を参観。先生方との意見交換を実施。
令和5年9月	カイロ日本人学校にて、特別活動の公開授業を実施。3校のEJSの先生方、エジプト教育省関係者、JICA関係者、EDU-Port関係者が参観。外部講師(サラヤ株式会社)を迎え、手洗いの大切さと方法を学ぶ授業を实践。その後、意見交流会を実施。
令和5年12月	Industrial校にて、EDU-Port関係者と共に、カイロ日本人学校の2名が授業参観と意見交換を実施。
令和6年2月	Industrial校にて、カイロ日本人学校教職員が授業参観とIndustrial校の先生方との意見交流会を実施。朝の会、掃除の様子、TOKKATSUの授業を参観した。意見交流会では、見学した感想や今後の交流について意見を交流。

4 EJSでのTOKKATSUの様子

(1) Leaderと呼ばれる日直

日直は、その日のリーダーとして位置づけられ、朝の会や帰りの会の司会進行をしている。日直の掲示物があり、だれが日直なのかわかるようになっており、クラス全員が日直の役割ができるようにしてあった。

これまでのエジプトは、リーダーを作って活動することはあるが、先生が指名した子ばかりがやることが多く、日本式にしたことで誰もがリーダーを経験できるようになった。

(2) 掃除

掃除分担表があり、教室に掲示してあった。日本と同じように、教室の箒や雑巾担当の子や階段や廊下掃除の子もいた。日本でよく見かける机を教室の片方に移動させながら掃除していた。また、階段掃除では、横向きに箒で履いてから下の段に落とすように履き方も指導されていた。掃除の最後には、反省会が開かれ、次の掃除に向



Industrial校での掃除の様子

けてどのようにするとよいかを話し合っている様子も見られ、日本式教育が浸透していることに驚かされた。

EJSで日本式教育が導入された時、子どもに学校の掃除をさせることについて保護者から強い抵抗があったと聞いた。理由は、掃除をする職業は社会的に地位が低い人がするものと見られているからである。しかし、保護者に子どもたちが掃除をする教育的価値を伝え、取り組み続けたことで、今では主体的に掃除を行い、家庭でも掃除をするような子に成長したと保護者から喜ばれる活動になったようだ。

(3) 学級会 (TOKKATSU)

4年生のクラスで「砂糖について」の学級指導を見学した。EJSは、日本特別活動学会からの指導のもと、授業を「つかむ」「さぐる」「見つける」「決める」という形で進めている。「つかむ」では、飲み物や食べ物にどれくらい砂糖が含まれているのか、ゲストティーチャーの歯科医より専門的な知見から砂糖は虫歯の原因になると学んだ。そして、「さぐる」では、学んだことから、自分の普段食べているものはどうか。砂糖について知っていることはないかななどの意見を出しあった。「見つける」では、砂糖を取り過ぎないためにどうしたらよいか話し合っていた。「はくのお父さんは蜂蜜を作っているの、砂糖の代わりに蜂蜜を食べてください」など、それぞれの考えを持ち、話し合いが行われた。最後の「決める」では、ワークシートを使って個人目標を書き、それを1週間取り組むように計画されていた。これは、令和5年9月に私がEJSの先生方に公開した授業と同じような単位時間の構成で実践されていた。エジプト人の先生方の吸収力に改めて感銘を受けた。

5 カイロ日本人学校における日本式教育の発信

(1) 学校行事

① 運動会

カイロ日本人学校は、令和4年度よりコロナ以前のように交流校を招いて運動会やジャパンデーを行った。Industrial校の児童生徒も招き、児童生徒との交流を実施した。

運動会では、Industrial校の児童に「開会式」「徒競走」「綱引き」「玉入れ」に参加。当日だけの参加では、運動会についての理解が不十分のため、2日前の予行練習にも参加してもらった。動き方や競技のルールを事前に共有し、日本の運動会について児童生徒や先生方と共通理解をした。

当日は、開会式でカイロ日本人学校の生徒と同じように整列し、ラジオ体操を行った。また、徒競走では事前に決められたレーンを他校の児童生徒と走ったり、綱引きでは日本人学校 VS Industrial校で対戦したり、玉入れではエビカニクスの音楽に合わせて踊ったり玉入れをしたりした。日本の運動会を経験し、Industrial校の校長先生より、感謝の言葉と共に児童生徒が活躍する日本の運動会のすばらしさに感激していた。

② JAPAN DAY

JAPAN DAYでは、「福笑い」「かるた」「おりがみ」「凧あげ」「書道」を体験してもらった。カイロ日本人学校の児童生徒は、事前に準備を進め、これまで学習してきた英語やアラビア語を使ってコミュニケーションしていた。運動会にも参加したIndustrial校の児童を見つけると「あの子知ってる!」と言ってうれしそうな笑顔で話していた。また、帰る時にはIndustrial校の児童から「この学校に通いたい」という声が聞こえ、日本の文化を楽しんでもらえたことが伝わってきた。

(2) 特別活動

私は担任ではないが、小学部1、2年生のクラスで特別活動の公開授業を実施した。ねらいは「手洗いのよさや手順と方法を学ぶことを通して、手に付いた汚れやばい菌を除去できるようになり、毎日健康で元気よく生活できるようにする」である。

EJSを見学の時に感じたEJSの課題を踏まえ、目的意識をもたせることと小学部1、2年生という発達段階を意識して授業を組み立てた。具体的には、①今までの手洗いでは汚れが落ちていないから、正しい手洗いの方法を学ぶという目的意識をもたせること。②外部講師（サラヤ株式会社の社員）を博士として招き、専門的な知識を身に付けたり、児童のやる気や学ぶ意欲を上げたりすること。③授業後に学習したことを生かして、2週間正しい手洗いに取り組み続けることで、習得させていくこと。この3つのことを踏まえ、授業公開を実施した。

EJSからは10名の先生方を招き、その他にもJICAやエジプト教育省の方々も参観した。また、文部科学省の「日本型教育の海外展開推進事業（EDU-Portニッポン）」の関係者もオンラインで多数参観された。指導案を日本語とアラビア語の2つを用意し事前に共有した。当日は、エジプト人の先生方にはヘッドフォンを配布し、JICAの協力を得て授業を同時通訳する形で実施した。



授業後の意見交換会の様子

授業後は、EJSの先生方、EDU-Portニッポン関係者、JICA、エジプト教育省関係者、カイロ日本人学校で意見交流会を実施した。今回のTOKKATSUの授業についてEJSの先生方からたくさん称賛の言葉とこれから実践につなげるための多くの質問があった。詳しい内容については、EDU-Portニッポンの関係者がまとめたレポートに掲載されている。

(3) 教員交流

令和6年2月に、日本人学校の先生がEJS Industrial校を訪問し、授業見学と意見交換会を実施した。日本人学校の先生からは、EJSで取り組んでいる日本式教育が浸透している様子を見て、「TOKKATSUのよさは何か」とエジプトの先生たちから学ぶ姿が見られた。また、EJSの先生たちから「こういう時は日本だったらどうするのか」という質問もされ、お互いに学びあう交流となった。

6 終わりに

日本の教育は、OECDの調査からもわかるように、世界的に見ても質の高い教育を提供できると認められている。私は、日本の教育をもっと世界にアピールすることで、教育の質の向上やグローバル化が進むだろうと考えている。エジプト日本学校は教育メソッドの1つとして、日本の教育システムを選び、国をあげて推進している。現在ではエジプト国内に51校のEJSが開校され、今後はさらに増える予定である。

これまで在外教育施設は、「現地校と交流＝現地理解」という捉え方が一般的だったように感じる。私はエジプト日本学校との交流プロジェクトをきっかけに「日本の教育を相手国に発信する」という考え方もつようになった。EDU-Portニッポンが推進しているように、日本の教育は国内だけのものではなく、未来の日本の産業として世界に羽ばたくことができるものではないかと考えている。

昨年、在外教育施設が法的に位置づけられ、日本の教育の代表として、相手国に日本の教育のすばらしさを発信する役割が期待されるようになった。カイロ日本人学校は、エジプト日本学校という、とても恵まれたパートナーと交流をスタートできた。この2年間で日本式教育を発信し、素晴らしい成果を得ることができた。これからも両校の発展を願うと共に、他国でも同様に日本式教育の発信が推進されることを期待している。

(引用参考文献)

- エジプト教育分野におけるJICAの協力（日本国際協力機構提供資料）
- カイロ日本人学校とEJSの交流について（日本国際協力帰国提供資料）
- 株式会社パデコによる交流の紹介 <https://holisticedu.padeco.education/events/post-3-1.html>
- EDU-Portニッポン海外展開のヒント集
https://www.eduport.mext.go.jp/journal/project/tsukubauniv_egypt_2023/
- 国立教育政策研究所 <https://www.nier.go.jp/kokusai/pisa/>